※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 128

【様式２】

エントリー学校名：徳島県石井町立浦庄小学校

活動名： 学びのかけ橋プロジェクト
コロナ禍でもできる！幼小中の連携

解決すべき課題：

先生方へのインタビューや６年生・中学生へのアンケートなどから３つの課題が見えてきた。

1　子どもたちは，進級や進学の際，友だち関係よりも学習面に対して不安を感じている。
2　子どもたちは，担任の先生によって毎年学習規律が変わることに対して負担を感じている。
3　教職員は，同じ中学校区にありながら他校の教育目標を知らないまま進学させている。

目標・方針：

1　目標　中学校区の教職員が「聴く・話す・学び合う力の育成」について共通理解を図り，11 年間を通して系統的に子どもたちの力を積み上げていく。
2　方針　まず，２つの小学校が共通理解を図りながら「聴く・話す・学び合う力の育成」に取り組み，具体的な子どもの姿を示す。それにより，幼稚園は目ざすべき目標がはっきりし力をつけやすくなる。中学校では，入学後に子どもたち同士が違和感なく学習活動に入っていくことができる。また，教科となった道徳科でも対話的な学びの効果的な手段として活用することができるよう取組を考えた。

活動内容：◎はコロナ禍でも実践できた活動　○は規模を縮小したり時期を変更したりして実践できた活動

1　小学校同士の連携　◎低中高学年でつけるべき子どもの姿を協議し，学習のルールを確立【資料①】
2　幼小の連携　◎幼稚園の先生と１年生の担任による幼小ミーティング（毎月２回程度）【資料②】
　　○小学校訪問（定期的に数名の園児が訪問し，小学校の施設や授業を見学する。）
3　幼中の連携　○職場体験学習　○伝統文化である藍のたたき染めを中学生が園児に指導
4　小中の連携　◎６年生にアンケートを実施し，実態把握　◎中学校の先生による出前授業【資料③】
5　幼小中の連携　○中学校区連絡推進会議（教職員・教育委員会・地域の方が参加）【資料④】
　　○授業公開デーの設定（お互いの保育・授業の様子や教科指導を参観）【資料⑤】

活動の成果：

1　相手を意識して聴いたり話したりできる子どもが増え，話し合うおもしろさや大切さを体験したことで，子ども同士のかかわりが深まっている。
2　小学校訪問や出前授業により，進級や進学する際の子どもの不安感が軽減された。【資料⑥】
3　どの先生の指導でも，進学先でも，学習のルールが変わらないので，子どもの負担が軽減された。
4　幼小中の子ども理解が進み，全ての教職員で子どもたちを支えていこうとする意識が高まっている。
5　子ども一人一人に関する情報を共有することで，個々に応じた効果的な対応ができている。
6　教職員は校種の垣根を越えて授業参観をしたことで，互いの教育技術を取り入れ授業研究が深まった。
7　共通した学習ルールの確立を図ることで，コロナ禍でも幼小中の連携が実践できた。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

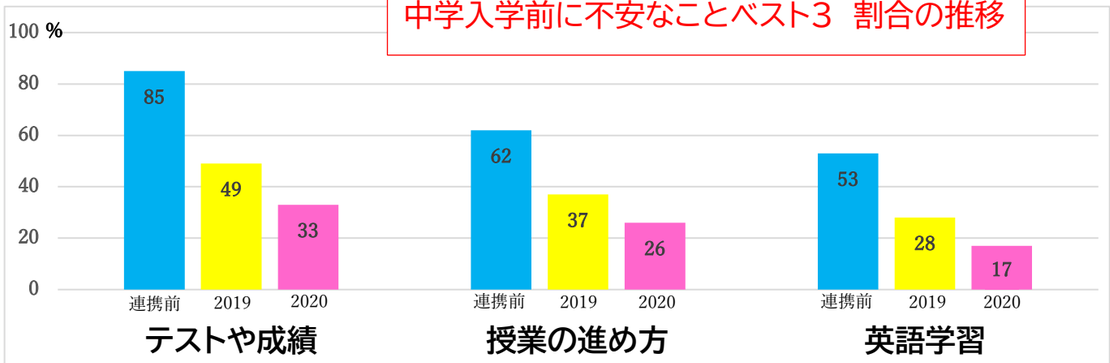
○学校間が離れていても，特別な時間やお金をかけなくても，11 年間を通した連携ができる。
○校種をつなぐ学びのスタイルを創造することで，対話的で深い学びが実現できることを明らかにした。

【資料①小学校間で共通した学習のルール（聴く・話す・学び合う）を確立】

【資料②幼小ミーティング】

【資料③中学校から出前授業】

【資料④中学校区連絡推進会議】

【資料⑤異校種間での授業参観】

【資料⑥６年生の実態把握】